

日本、第3の開国へ？

「3.11」の東日本を襲った震災・津波という未曾有の大惨事、それに伴う「フクシマ原発事故」は世界に大きなショックを与えた。

70億人を超える世界人口、それに伴う地球規模の気候変動。その気候変動を防止すべく、「低炭素・クリーンなエネルギー」としての原子力発電を当然のように受け入れてきたために、「フクシマ原発事故」は世界各国のエネルギー政策に大きな影響を与えた。

この国難に当たって、日本の政治は大きなビジョンと政策、実践を示せないといった有り様である。また、遅々として進まない東日本大震災への政府の対応に国民の不満が募っている。そのような中、政治課題の中心は環太平洋パートナーシップ協定(TPP)、消費税増税をはじめとした財政となっている。

世界では、世界経済の中心が中国、インド、東南アジア諸国連合(ASEAN)などのアジアへ、さらには欧米の金融危機など、数年前には予見もされなかった変化が起り、1年先も予見できない様相を示し始めた。近年のインターネットの普及に伴い、「アラブの春」、「Occupy Wall Street」などの運動も世界で広がっている。

従来の「Establishments」に対する不信が湧き出している一方で、政府とは関係なく、被災者への国民主体の種々の活動が行われている。多くの若者が参加しており、“何か”が始まっているような雰囲気がある。このような活動は、現場での「絆^{きずな}」を築き、さらにネットでつながり、ある種の新しい「Movement」になっていく可能性を秘めている。

これら自発的に発生している地域ごとの「Movement」の主体者たちが、活動を世界へとつなげていく意識を持ち、行動に移すことが、一つ一つの小さな「出島」になり、利害調整でなかなか進まない国家政策のお題目「第3の開国」へと、日本を導いていく可能性がある。

言うなれば、主体的な開国である。

絆
きずな



黒川 清 (くろかわ きよし)

政策研究大学院大学アカデミックフェロー、Health and Global Policy Institute 代表理事

東京大学医学部卒業後、同大学院医学研究科修了。1959-84年在米。ペンシルバニア大学医学部などを経て、79年UCLA内科教授。帰国後、89年東京大学内科教授、96年東海大学医学部長。日本学術会議会長・内閣府総合科学技術会議議員(2003-07年)、内閣特別顧問(06-08年)、WHOコミッショナー(05-09年)などを歴任。11年12月国会の福島原子力発電所事故調査委員会委員長。また、国際科学者連合体の役員・委員や国際腎臓学会理事長、国際内科学会議長などを務め、幅広い分野で活躍。ブログ<<http://www.kiyoshikurokawa.com/>>

(撮影:佐久間哲男)